



秋田県立横手支援学校 教育プラン

(令和7年4月改訂)

令和5年度～令和9年度

I 学校の現状と課題 ・ 学校を取り巻く将来の状況の予測

1 本校の現状と課題

本校の児童生徒数は過去10年、80人台後半から100人の間で推移しており、概ね横ばいの状況にある。知的障害を主とする特別支援学校ではあるが、肢体不自由など障害を併せ有する児童生徒も一定数おり、該当する障害種の専門性が今後も必要である。なお、令和7年度の重複学級児童生徒数の割合は31%であった。

教育課程はキャリア教育を柱としており、中でも職業教育の充実を図るため、中学部と高等部では作業学習のほか、職業・家庭科、職業科、家庭科を設定している。教育活動は、地域に根ざした教育活動「横手が舞台」や読書活動、音楽活動などが特色であるが、取組全体を整理し、発信することが課題である。

校舎は、小・中学部と高等部が離れており、小・中学部も同じ校舎内ではあるが、教室や職員室が離れている。分離校舎は本校最大の課題であるが、特別支援学校の特色である小中高一貫の教育を保障できるよう、全校・学部間・学年間の関わりやつながりを大切にしている。

2 将来の状況の予測

過去10年の本校児童生徒数は概ね横ばいの状況にあるが、横手市内の小・中学校特別支援学級（知的障害、自閉症・情緒障害）児童生徒数は、過去10年比で約2倍となっている（県教育庁義務教育課調べより）。一方で、少子化が急速に進む地域の状況を踏まえると、今後の児童生徒数は緩やかに減少しつつ、一定数は在籍するものと考えられる。

老朽化した校舎への対応については、令和6年9月の県議会教育公安委員会において、横手地区高等学校統合校開校に併せ、平成高等学校を横手支援学校に令和14年度から供用開始を目指し、改修・転用予定であることが伝えられた。今後は、校舎移転計画基本構想（素案）を策定するとともに、老朽化校舎への対応を引き続き進めていく必要がある。

II 目指す方向性 ・ 学校像や児童生徒の姿

1 教育目標

一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加を目指して、たくましく生きる児童生徒を育成する。

【目指す学校像】

- ・ あいさつや声が響き合う 笑顔あふれる学校
- ・ 多様な教育的ニーズに応じて 一人一人の力を伸ばす学校
- ・ 地域に信頼され 地域に貢献できる学校

【目指す児童生徒像】

- ・ 明るく 健康で 心豊かな明るい児童生徒
- ・ 仲良く 協調性に富み 社会性豊かな児童生徒
- ・ 元気よく 自ら意欲をもって役割を果たす児童生徒

2 基本方針 児童生徒が主役の魅力ある学校づくりの推進

～児童生徒の思いや考えと、全校・学部間・学年間の関わりやつながりを大切に～

Ⅲ 具体的な目標 ・ 取組 ・ 推進指標

1 社会に開かれた教育課程の実現と特色ある教育活動の展開

- (1) 地域に根ざした教育活動「横手が舞台」の充実とキャリア教育との関係整理・発信
- (2) 言語能力等の育成に資する授業研究の実施とICTの効果的活用、読書活動の充実
- (3) 児童生徒の思いや考え、学びを生かした交流及び共同学習の推進

〈推進指標〉ICTを活用して指導・支援している教員の割合

年度	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
割合(%)	84.0	95.6	100	100	100

※R4：85.5%（学級担任）、R5は全教員（管理職、非常勤講師を除く）
R6からは授業を担当する教員（特別支援教育課調査）

〈推進指標〉居住地校交流を行った小学部児童及び中学部生徒の割合

年度	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	
割合(%)	小	40.7	40.6	50	45	45
	中	8.7	20.0	11.5	15	15

※R4：小学部30.7%、中学部15.7%

2 将来を見据えたキャリア教育の充実と生涯学習の推進

- (1) キャリア教育全体計画やキャリアノート等の活用による、キャリア発達を促すキャリア教育の充実
- (2) 生涯を通じて学ぶ意欲を育む教育活動や部活動の推進

〈推進指標〉高等部卒業生の就職者の割合

年度	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9
割合(%)	18.2	40.9	37.5	30	30

※R4：16.6%

3 健康で安心・安全な生活を支える学校体育・食育と生徒指導、防災教育の充実

- (1) 個々や学級・学年・学部の実態に応じた運動機会と食に関する指導の充実
- (2) 深い児童生徒理解に基づき、学級づくりや授業づくりと関連付けた生徒指導の推進
- (3) 保護者や近隣施設、関係機関と連携した避難訓練等の防災教育の充実

4 センターの機能の充実と特別支援教育・特別支援学校への理解推進

- (1) 小・中学校の学級担任等の理解・取組を促す障害理解授業の充実
- (2) 高等学校の教職員の理解・取組を促す研修会の充実
- (3) 学校展やホームページ等による理解推進の取組の効果検証と改善